

男子戦評

大会名 県民共済カップ第73回全日本バレーボール高等学校選手権大会青森県代表決定戦
日 時 令和2年11月20日～21日
会 場 マエダアリーナ

男子決勝（11月21日）

$$\text{弘前工業高等学校} \quad 3 \quad \left\{ \begin{array}{l} 15-25 \\ 25-22 \\ 25-21 \\ 25-22 \end{array} \right. \quad 1 \quad \text{五所川原工業高等学校}$$

ファーストレフリース

新岡 勇士

セカンドレフリース

工藤 治

3年連続9回目の選手権大会出場を目指す五所川原工業高等学校（以下五工）と3年ぶり41回目の出場を目指す弘前工業高校（以下弘工）との対戦である。

第1セット、五工はブロックで先制に成功。続いて時間差攻撃やサーブエース、ブロックで序盤から主導権を握る。5-1としたところで弘工タイムアウト。弘工はサイド攻撃やブロックでのポイントなどで応戦。中盤以降、五工は岡本知、岡本佳を軸に攻撃を組み立て、第1セットを五工が25-16で先取した。

第2セットも序盤から五工がバックアタック、サイド攻撃、時間差攻撃など多彩な攻撃を仕掛け、リードする。対する弘工は鳴海、伊藤、佐藤らのブロックやテンポの早い攻撃で応戦し、中盤にかけて逆転に成功。さらに4ポイント連取で差を広げる。終盤は五工が岡本知、岡本佳らの攻撃で最大6点差を2点差まで詰め寄るが、弘工が要所で得点を決め25-22で第2セットを制した。

第3セット序盤、弘工は五工のミスなどで一歩リードする展開。中盤にかけて弘工はブロックや速攻が機能し、リードを保ったまま終盤へ。五工はサイドからの攻撃で応戦するが、終盤でも弘工のブロックや速攻が機能し、第3セットも弘工が25-21で連取した。

第4セット序盤、五工はサイド攻撃などで4-1とし、抜け出したかに思われたが、直後弘工はブロックやサイド攻撃で4ポイント連取し、逆転に成功。弘工は澤頭のサイド攻撃などでさらに加点し5点差とする。終盤、五工は岡本知のスパイクなどで詰め寄るが、弘工は五工のミスやブロックアウトなどで得点する。最後は弘工種市のブロックが決まり、セットカウント3-1で弘工が3年ぶり41回目の選手権大会出場を決めた。

戦評者 本間 貴士